

《担当者名》常田美和 [tsuneta@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

性と生殖に関わる健康課題の諸側面を理解し、援助方法について考察する。この目標に向けて、リプロダクティブヘルス・ライツに関連する諸問題を国際的視野も含めて学ぶとともに、周産期における母子の対象理解と支援に関する理論、研究の動向と研究方法論について、講義、文献抄読、ディスカッションにより学習する。

【学修目標】

- 1) リプロダクティブヘルスおよび国際的な母子保健の取り組みを理解できる。
- 2) 周産期における母子の対象理解と支援に関する理論を理解できる。
- 3) 看護実践で遭遇した事例の悲嘆過程を理論に基づき分析できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 ) 5	母性看護における主要な政策と概念	リプロダクティブヘルス・ライツとは ミレニアム開発目標から持続可能な開発目標へ 母子保健の取り組み	常田
6	親への移行	『新助産学』の抄読とディスカッション 第10章 親になること	常田
7 ) 9	子どもという価値	『子どもという価値』の抄読とディスカッション 第3章 なぜ子どもを産むか 第4章 人口革命下の女性の生活と心の変化 第5章 子どもを「つくる」時代の問題	常田
10 ) 12	母親としてのアイデンティティ形成	『母性論- 母性の主体的体験』の抄読とディスカッション 第4章 母親らしさ 第5章 母性課題 第6章 妊娠・出産における身体像 第7章 妊娠・出産における時間と空間 第8章 産褥早期	常田
13 ) 14	危機理論の概観	『危機介入の理論と実際』の抄読とディスカッション 第1章 危機介入方法論の歴史的発達 第2章 精神療法技術の分化 第3章 危機介入への問題解決アプローチ	常田
15	周産期における母子の対象理解と支援に関する理論	親になることに関する理論 愛着理論と絆理論 喪失と危機理論	常田

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

ディスカッションへの参加（30%）、プレゼンテーション（70%）により総合的に評価する。

【教科書】

ルヴァ・ルービン、新道幸恵・後藤桂子訳：ルヴァ・ルービン 母性論 - 母性の主観的体験，医学書院，1997  
 柏木恵子，子どもという価値 - 少子化時代の女性の心理，中公新書，2003

【参考書】

適宜提示する。

【学修の準備】

事前に文献を読み、プレゼンテーションの準備をして講義に臨む。